



スイス・リーの最新「シグマ」調査を発表

- 2009 年における自然災害および人災による損害は、世界全体で 620 億米ドル
- 死亡者数はアジアが最多

本件に関するお問い合わせ

スイス再保険会社 日本支店
コーポレートコミュニケーションズ
横田 真紀

Tel 03 3272 4888
Fax 03 3271 0990
www.swissre.com

香港、2010 年 3 月 16 日ースイス再保険会社(以下、スイス・リー)の最新「シグマ」調査によると、2009 年、自然災害および人災により約 15,000 人の人々が命を失い、アジアで最も多くの死者を出しました。経済的損害額は 620 億米ドル、保険損害額はおよそ 260 億米ドルに上りました。米国のハリケーン被害が少なかったことから、保険損害額は平均を下回りました。

2009 年の全世界での自然災害による保険損害額は 220 億米ドルとなり、人災による損害額は 40 億米ドルに達しました。保険損害額が最も高かったのは北米で、127 億米ドルを超えました。

アジアでは、6 年連続で最も多くの死者を記録し、自然災害による世界全体の犠牲者数約 15,000 人のうち 9,400 人(全体の 62.9%)はアジア在住でした。最も多くの人命が失われたのは台風と地震でした(表 2 参照)。しかし、アジアの保険損害額は約 24 億米ドル(全体の 9.3%)と比較的低い水準にとどまりました。

2009 年の保険損害額は低水準に

2009 年は前年に比べて損害の少ない 1 年となりました。スイス・リーの最新シグマ調査「2009 年の自然災害と人災」によると、2009 年に発生した自然災害は 133 件、人災は 155 件に上りました。このうち 6 件が保険損害額 10 億米ドルを上回りました。損害額が最も大きかったのは 1 月にフランスとスペインを襲った冬の嵐「クラウド」で、保険損害額はおよそ 34 億米ドルに達しています。

過去のデータによれば、災害による損害は変動が大きいものの、大幅な増加傾向にあります。世界の保険損害額は米ドル換算で 10%近くの増加傾向を示していますが、その要因としては収入の増加や富の蓄積、被害にあいやすい地域に富が集中していること、保険の普及などが挙げられます。地球温暖化とそれに関連して極端な気象条件のリスクが高まっていることも増加傾向に拍車をかけています。

スイス・リーのチーフ・エコノミスト、トマス・ヘスは次のように述べています。「自然災害による損害が 2009 年と同程度の低水準になる可能性は 35% 足らずです。ヨーロッパを襲った冬の嵐『シンシア』やハイチとチリの大地震など、2010 年はすでに大規模災害が発生しています。保険業界は損害の大幅増に備える必要があります。変動が大きいため被害額が 2009 年の 3~5 倍に上昇する可能性もあります。2005 年に保険損害額が過去最高の 1,200 億米ドルを記録しましたが、近い将来この記録が塗り替えられる可能性があります」

損害を生む「第 2 次危険」への関心の低さ

近年は、地震やハリケーン、冬の嵐など「第 1 次危険」に関心が集まっています。しかし、第 2 次もしくはその他の災害と呼ばれるそれ以外の多くの事象も甚大な物的被害を及ぼす可能性があります。第 2 次危険とされる災害の主なものには洪水、土砂崩れ、ひょう、竜巻、ヨーロッパ以外での冬の嵐、雪嵐や氷害、干ばつ、森林火災などがあります。2009 年の自然災害による損害の半分以上は、第 2 次危険とされる災害が原因でした。

「シグマ」調査の共同執筆者であるジェンス・メルホルンは次のように述べています。「第 1 次危険の保険料が第 2 次危険による損失の補てんに使われることは珍しくありません。保険料が減少すれば、第 1 次危険と第 2 次危険による被害総額をカバーしきれなくなるおそれがあります。リスク評価に利用できる優れた確率モデルがあれば、第 2 次危険のリスクの測定と価格決定の精度向上に役立つでしょう」

先進国と発展途上国両方に巨大リスクを及ぼす地震

2010 年 1 月のハイチ大地震と 2 月のチリ大地震により、地震の破壊力が明らかになりました。1970 年以降に発生した 360 の地震による犠牲者の数は、100 万人以上に上っています。

「シグマ」調査の共同執筆者であるブライアン・ロジャースは次のように述べています。「多くの被災者を出す地震は、発展途上国の中でも人口密度が高く地震が起きやすい地域で発生する傾向にあります。それらの国々では往々にして一人当たりの国民所得が低く、地震の予防や地震後の対策に充てる資金が乏しいのが現状です」

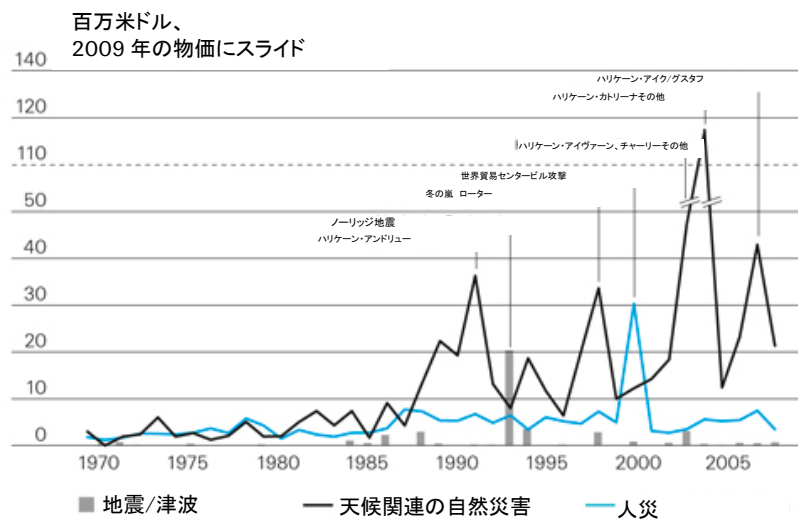
通常、死亡者数は発展途上国の方が多傾向にありますが、先進国では富が蓄積されている分、保険損害額が大きくなります。しかし、持てる国は進んだ予防策を実施しインフラも整っているため、災害による被害を抑えることが可能です。経済が発展している国々では保険の付保が浸透しており、復興費用に当てることができます」

(再)保険会社、仲介業者、政府、国際機関など官民が協力すれば、後発国も保険のメリットを享受することができます。トマス・ヘスは次のよ

うに述べています。「民間の保険会社と再保険会社は損害保険ソリューションに寄与することで、新興市場の安定化を図ることができますが、これは単なる第一歩に過ぎません」

過去には政府と保険会社が一体となり、再保険や資本市場のソリューションを導入したことがあります。大地震や暴風に際し、これらのソリューションによって参加国政府に直ちに資金が割り当てられ、財政援助に大きく寄与しました。

図 1. 1970-2009 年の大災害による保険損害額



出典: スイス・リー、「シグマ」災害データベース

表 1. 2009 年の保険損害額上位

順位	保険損害額 (100 万米ドル)	日時 (発生開始日)	事象	国
1	3372	2009.01.24	冬の嵐 クラウス 最大風速 170 km/h、大雨	フランス、スペイン
2	1 350	2009.02.10	雷雨 最大風速 145 km/h、雹	米国
3	1 193	2009.07.23	雷嵐 ウォルフガング 最大風速 130 km/h	スイス、オーストリア、 ポーランドその他
4	1 130	2009.04.09	竜巻、暴風雨 最大風速 105 km/h、雹	米国
5	1079	2009.02.07	ヴィクトリア州の森林 火災、最大風速 100 km/h	オーストラリア

出典: スイス・リー、「シグマ」災害データベース

表 2. 2009 年災害における犠牲者数上位

順位	犠牲者 (死者、行 方不明者) 日	日時 (発生開始 日)	事象	国
1	1 195	2009.09.30	地震 (Mw7.6)、余震	インドネシア、インド 洋
2	930	2009.08.07	台風第 8 号 (国際名モーラコッ ト)、最大風速 148 km/h、洪水	台湾、フィリピン、中 国その他
3	854	2009.09.26	台風 16 号 (国際名ケッツァー ナ) 最大風速 160 km/h、洪水	フィリピン、ベトナム、 カンボジアその他
4	539	2009.10.03	台風 17 号 (国際名バルマ) 最大風速 195 km/h、大雨	フィリピン、中国、 台湾その他
5	520	2009.07.01	熱帯雨による洪水	インド

出典: スイス・リー、「シグマ」災害データベース

表 3. シグマ災害統計の定義と選択基準

自然大災害	自然の力により引き起こされた損害事象	
人災	人間の活動に関連した損害事象	
損害総額	直接的な経済的影響をもつ損害	
保険損害額	損害総額中、保険により補てんされた損害	
最低選択基準:		
損害総額		6520 万米ドル
または保険損害額	船舶	1710 万米ドル
	航空	3430 万米ドル
	その他	4260 万米ドル
または被災者数	死亡または行方不明者	20 人
	負傷者	50 人
	家を失った人	2000 人

出典: スイス・リー、「シグマ」災害データベース

スイス再保険会社について

スイス再保険会社(略称「スイス・リー」)は、世界をリードする再保険会社です。当社は世界20カ国以上で事業拠点を展開しています。1863年にスイスのチューリッヒで創業されたスイス・リーは、事業や発展に付随するリスクを負うことを可能にする金融商品を提供しています。伝統的な再保険商品と損害および生命・医療保険関連サービスは、包括的なリスク管理のための保険をベースにしたコーポレート・ファイナンス・ソリューションとその付加サービスによって補完されています。スイス・リーはスタンダード&プアーズから「A+」、ムーディーズから「A1」、A.M. Bestから「A」の格付けを取得しています。